

社会との連携をどのように進めていますか？

JR東日本グループは、社会の一員として地域・国際社会との交流を進めています。企業市民としての役割を果たすために、駅を中心としたコミュニティづくりをはじめ、福祉、文化、国際協力を通じた社会貢献活動を行っています。

駅を中心とした
コミュニティづくり

駅型保育と介護事業

JR東日本グループは、地方自治体、保育事業者との協力のもと、駅に近い土地空間を活用した「駅型保育」を進めています。

1996年度以降、2004年4月までに13園を開園。アクセスのよさを活かし、働きながら子育てをする方々に喜ばれています。

2000年度からは介護事業も始めており、2004年4月には(株)日本レストランエンタプライズが東京都大田区に有料老人ホーム「NRE大森弥生ハイツ」をオープンしました。



2004年の春にオープンしたばかりの「NRE大森弥生ハイツ」

地域活性化への取り組み

JR東日本では、駅を単なる「旅の発着点」ではなく、多くの人々が集う情報と文化の発信基地とすることで、地域の活性化に貢献できると考えています。

駅舎に公民館や図書館などの公共施設を併設することに協力したり、自治体の駅

周辺整備計画に合わせて駅の改良工事を行ったりしています。また、道路渋滞を解消することで地域を活性化すべく、線路と道路の立体交差化についても、自治体などと協力しながら進めています。



霊山神社を模した木造武家造で、2002年の国土交通省「東北の駅百選」にも選ばれた東北本線伊達駅。駅舎内にコミュニティスペース「駅なかプラザ」を併設

社会貢献活動

鉄道少年団の活動支援

鉄道少年団は、青少年の交通道德の高揚を目的に、(財)交通道德協会が運営しており、15支部約450人の団員が駅の清掃活動や各種鉄道施設の見学などを行っています。JR東日本では、支社内に鉄道少年団の事務局を設置して、運転シミュレーターなど活動の場を提供、積極的に活動を支援しています。



電車内の清掃を行う鉄道少年団員。これらの活動を通じて交通道德・マナーの向上を図る

企業は社会的な存在であり、その存立基盤である社会からの信頼なしには、事業そのものが成り立ちません。

鉄道を事業の軸としているJR東日本グループに課せられているいちばん重要な社会的責任は、安全・安定な輸送です。私たちJR東日本グループは、会社設立以来、安全対策に対し研究開発、投資を通じ最も力を入れてきました。

また、お客さまの満足も追求してきました。鉄道を利用される全てのお客さま、グループ会社のサービスを受けられる全てのお客さまに対し、提供するサービスの質の向上を図るため、日々お客さまからいただく声を大切にしています。同時に、事業を展開する地域住民の方々との協力関係のもと、駅を拠点とした住みよい社会づくりへの努力も続けています。

これらの役割を十分に果たしていくためには、JR東日本グループ全ての社員が、誇りをもって働くことのできる職場をつくることも重要だと考えています。

JR東日本グループは、これからも信頼される企業であり続けるために不断の挑戦を続けていきます。

旅のプレゼント

JR東日本では、日ごろ旅行に出かける機会の少ないハンディキャップを持つ方々を北海道の旅にご招待する「旅のプレゼント」を後援してきました。これは1994年から実施しているもので、これまでに約7,000人の方々にご参加いただきました。

国際社会への貢献・協力

JR東日本では、国際社会への貢献の一環として、社員の派遣や国際協力機構（JICA）の依頼による研修生受け入れを実施しています。主にアジア、東欧、アフリカなどからの研修生に対し、講義・視察を行ってきた実績があります。

このほか、技術開発や経営に関する情報交換、駅舎・車両のデザイン開発やメンテナンス、旅客サービス、社員教育などについて、ドイツ鉄道、イタリア鉄道、フランス国鉄と、それぞれ協力協定を締結しています。

国際協力の2003年度実績

派遣	長期(1年以上)	1カ国 1名
	短期(1年未満)	1カ国 3名
受け入れ	国際協力機構(JICA)研修員	13件 148名

東日本鉄道文化財団を通じた取り組み

活動とその目的

JR東日本は1992年に「東日本鉄道文化財団¹」を設立し、人間性豊かな鉄道文化と交通文化の醸成を目的として活動しています。

地域文化の振興

東京駅ステーションギャラリーでは「小さくても本格的な美術館」をモットーに、1988年以来さまざまなジャンルの展覧会を開催しています。

また、東日本各地に残る伝統文化を継承し、地域文化の振興を図るため、1993年度から助成を行っています。2003年度は12件、5,460万円の助成を行いました。



2003年度に助成を行った秋田県の「毛馬内の盆踊」

調査・研究の促進と支援

「鉄道文化と新しい交通社会の探求」を基本テーマに、鉄道経営、鉄道技術、鉄道の未来像など、鉄道に関する独創的な学術調査・研究の発表会を行いました。

国際理解・国際交流の推進

アジア諸国の鉄道の若手幹部職員を日本へ招き、鉄道経営、鉄道技術などを学ぶ「JR Eastフェロシップ」「JR Eastインターナショナルコース」を実施しています。

また、交通問題に関する世界各国の有識者が意見を交換する「国際的な討議の場」を提供することを目的に、英文の交通情報評論誌（JRTR）²を発行しています。

研修生の受け入れ実績

年度	JR East フェロシップ	JR East インターナショナルコース	中国鉄道部研修
1998	4カ国 7名	-	34名
1999	4カ国 8名	-	13名
2000	4カ国 8名	-	35名
2001	5カ国 10名	* 5カ国 10名	22名
2002	5カ国 8名	* 5カ国 10名	21名
2003	5カ国 9名	9カ国 16名	10名

*旧「中堅幹部研修」

¹ 東日本鉄道文化財団

URL: <http://www.ejrco.jp/>
電話 03-5334-0623

² 英文の交通情報評論誌（JRTR）

『Japan Railway & Transport Review』